

# アフターコロナにおける保育者の マスク着脱に伴う乳幼児の反応

Reactions of infants and toddlers to the removing of  
masks by caregivers in the after-corona.

七木田 方 美  
NANAKIDA Masami

## Abstract

In May 2023, new coronavirus infection was placed in category 5, and the wearing of masks for three years is now left to the discretion of facilities or individuals. Therefore, we conducted a study to investigate how infants react when caregivers remove their masks, and to clarify what is necessary to maintain trust between caregivers and infants while continuing to care for them. As a result, the following five points were considered.

(1) More than 70% of infants aged 18 to 36 months gaze at the face of the caregiver who has removed the mask.

(2) At the time infants aged 6 to younger than 18 months feel anxious or fearful, they tend to cling trustworthy objects. The caregivers can be trustworthy objects as well as parent's. However, differences of caregiver's faces when they wearing a mask or not make infants feel difficulty to recognize a caregiver as a same trustworthy object. Therefore, it is advisable to remove masks when caregivers communicating with infants and their parents for avoiding confusion for infants.

(3) Children between 24 to 36 months are in the period of rapid language acquisition, so it is important to show their mouths and facial expressions by removing their masks during daily conversations and storytelling.

(4) Although individual differences in the development of mental functions need to be taken into consideration when unmasking in front of children aged 37 months and older, it is generally considered that there is no need to be concerned.

(5) Continuous and appropriate involvement with infants and toddlers by caregivers with expertise in development through a "charge system" and a "relaxed charge system" is considered to be more necessary.

## I. 問題と目的

2019年末に始まった新型コロナウイルス感染症は「国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれ」がある状態とは考えられないことから、2023年5月8日より、新型コロナウイルス等感染症に該当しないものとし、5類感染症に位置づけられた<sup>1)</sup>。それに伴い保育所等におけ

る感染症予防ガイドラインの一部改訂がなされた。

保育所等におけるマスク着用についての基本的な考え方は、ガイドラインに次のように示された。「保育所等における保育士等の職員のマスクの着用については、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることが基本となります。なお、施設管理者等が感染対策上又は事業上の理由等により、職員等にマ

スクの着用を求めることは考えられます」<sup>2)</sup>。

本調査の1年前の2022年6月に、著者が実施した保育者を対象とした調査では、乳幼児の反応が乏しくなっていることや集中力の低下、不快を泣いて訴えることの増加などの危惧は、COVID-19パンデミックにおけるマスク着用保育だけが要因とは言えないと考察した。また、4割を超える保育者が「（乳幼児が）マスクを外して欲しそうにする」と回答したことから、口元を含むマスクで隠れる顔の部分から乳幼児が受け取る情報があり、それは乳児との応答的な関わりにおいて必要な情報であると考えられると示唆した<sup>3)</sup>。

そこで、マスク着用が施設や個人の判断に委ねられ、保育者がマスクを外したとき、乳幼児がどのような反応をするのかを調査する。そして保育者と乳幼児との信頼関係を保ちながら保育するために必要な事柄を考察する。

## II. 方法

### 1. 対象・期間

調査対象は、対面でのセミナーに参加した保育者および保育関係者であり、協力依頼に同意を得られ、かつ回答のあった516名を対象とした。期間は2023年6月～7月であり、日本においてCOVID-19が5類感染症に位置付けられてから、1か月～2か月後の期間であった。

### 2. 調査方法

調査は、ICTを用いたアンケートにより実施した。セミナーの内容がアンケートの回答に反映されないようセミナーの最初に実施した。また、口頭及び調査用紙にて調査目的を伝え、倫理的配慮として、個人が特定されないことと、回答は任意であることを説明した。

### 3. 調査内容

調査項目のうち、勤務年数、担当クラス、マスクを外して保育者のマスクを外した経験の有無、保育者がマスクを外した時の子どもの様子を本研究の分析項目

とした。なお、子どもの反応は、①凝視「じっとみつめた」、②陽性感情「うれしそうにした」、③陰性感情「泣きそうになったり怖がったりした」、④戸惑い「キョロキョロした」、⑤興味「マスクを外して欲しそうにした」があったかどうか、また実際の様子を自由記述で求めた。

## III. 結果

### 1. 対象

回答者516名の勤続年数の内訳は、COVID-19禍以前の保育を経験している勤続年数10年以上142名（27.5%）、4年～9年102名（19.8%）、COVID-19禍以降に保育者になった勤続年数1年～3年の保育者は266名（51.6%）、未回答6名（1.2%）であった。担当クラスは、18か月未満児の担当者134名（26.0%）、18～24か月児の担当者134名（26.0%）、25～36か月児の担当者が133名（25.8%）、37か月以上児の担当者が89名（17.2%）、フリーもしくは未記入者が26名（5.0%）であった。なお、担当クラスの表記は本論文ではTable 1の通りGroup A～Eとした。

Table 1 グループ名が示す保育者

GroupA	18か月未満児担当 (N = 134)
GroupB	18～24か月児担当 (N = 134)
GroupC	25～36か月児担当 (N = 133)
GroupD	37か月以上児担当 (N = 89)
GroupE	フリー or 未記入 (N = 26)

### 2. マスクを外し、保育者の表情を見せたことがあるか

マスクを外した保育者の表情を乳幼児に見せたことがあるかどうかという質問に対し、「常に見せている」170名（32.9%）、「意図的に見せたことがある」248名（48.1%）、「たまたま偶然見せたことがある」75名（14.5%）、「ない」21名（4.1%）、「その他」2名（0.4%）であり、95%の保育者が乳幼児にマスクを外して表情を見せたことがあった（Fig 1）。

Table 2 保育者がマスクを外した時の乳幼児の反応合計

	合計 N = 516	GroupA N = 134	GroupB N = 134	GroupC N = 133	GroupD N = 89	GroupE N = 26
凝視「じっと見つめた」	67.6 (349)	76.1 (102)	75.4 (101)	69.2 (92)	47.2 (42)	46.2 (12)
陽性感情「うれしそうにした」	45.0 (232)	39.6 (53)	46.3 (62)	51.9 (69)	45.0 (40)	30.8 (8)
興味「マスクを外してほしそうにした」	17.4 (90)	20.9 (28)	20.9 (28)	18.0 (24)	7.9 (7)	11.5 (3)
戸惑い「キョロキョロとした」	4.3 (22)	3.7 (5)	5.2 (7)	5.3 (7)	2.2 (2)	3.8 (1)
陰性感情「泣きそうになったり怖がったりした」	4.1 (21)	8.2 (11)	3.0 (4)	3.8 (5)	1.1 (1)	0.0 (0)

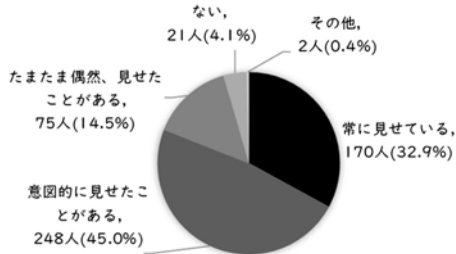


Fig 1 マスクを外し、先生の表情を見せたことがありますか (N=516)

### 3. 保育者がマスクをはじめて外した時の乳幼児の反応

保育者がマスクを外した時の乳幼児の反応は、“凝視「じっとみた」” 67.9% (349人)，“陽性感情「うれしそうにした」” 45.0% (232人)，“興味「マスクを外して欲しそうにした」” 17.4% (90人)，“戸惑い「キョロキョロした」” 4.3% (22人)となった“陰性感情「泣きそうになったり怖がったりした」” 4.1% (21人)であった (Table 2)。

担当する乳幼児の月年齢グループ別では，“凝視「じっと見つめた」”はGroupA, 76.1% (102人)，GroupB, 75.4% (101人)，GroupC, 69.2% (92人)，GroupD, 47.2% (12人)と月年齢が低いグループほど凝視する乳幼児が多かった (Fig 2)。

“陽性感情「うれしそうにした」”は，出現率の高い順にGroupC, 51.9% (69人)，GroupB, 46.3% (62人)，GroupD, 45.0% (40人)，GroupA, 39.6% (53人)となり，25～36か月グループが最も高かった (Fig 3)。

“興味「マスクを外して欲しそうにした」”はGroupA, 20.9% (28人)，GroupB, 20.9% (28人)，GroupC, 18.0% (24人)，GroupD, 7.9% (7人)と，18か月未満児と18～24か月児グループが20%以上となり，37か月以上児グループは10%未満となった (Fig 4)。

“戸惑い「キョロキョロした」”はGroupC, 5.3% (7人)，GroupB, 5.2% (7人)，GroupA, 3.7% (5人)，GroupD, 2.2% (2人)であった (Fig 5)。

“陰性感情「泣きそうになったり怖がったりした」”はGroupA, 8.2% (11人)，GroupC, 3.8% (5人)，GroupB, 3.0% (4人)，GroupD, 1.1% (1人)であった。18か月未満児グループが最も高い値となった (Fig 6)。

### 3. 自由記述

保育者がマスクを外した顔を初めて乳幼児に見せたときの乳幼児の反応を，自由記述にて求めたところ，5か月児から6歳児までの回答があった。

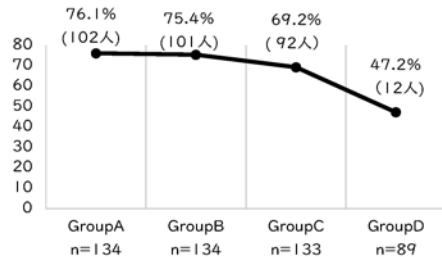


Fig 2 凝視「じっと見つめた」

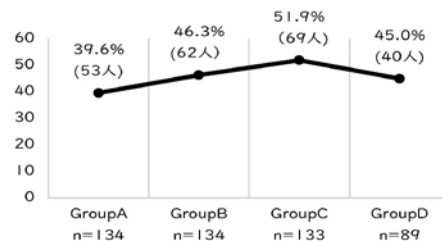


Fig 3 陽性感情「うれしそうにした」

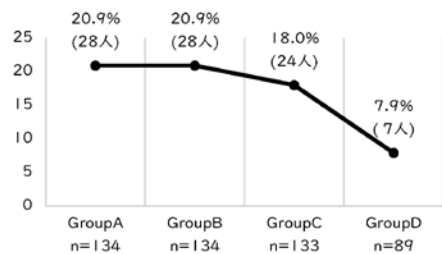


Fig 4 興味「マスクを外してほしそうにした」

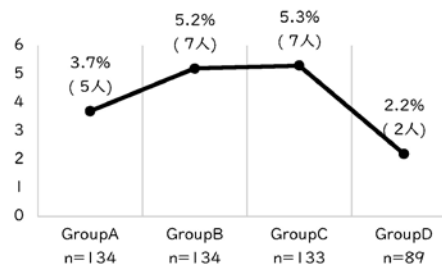


Fig 5 戸惑い「キョロキョロとした」

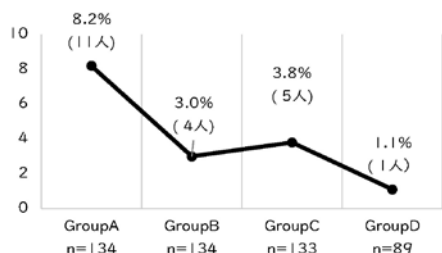


Fig 6 陰性感情「泣きそうになったり怖がったりした」

Table 3 保育者がマスクを始めて外した時の6か月未満児のようす

月 齢	NO	自 由 記 述
5	#1	マスクを外した時はゾーッと見つめていたが普段通りあやすと変わらず笑顔が見られた。
	#2	マスクを外して語りかけた時の方が反応が良く笑顔を見せてくれた。
6	#3	しばらく見つめられ泣きそうになった。
	#4	びっくりした後凝視、その後困った顔になった。
	#5	4月頃、やっと園に慣れてきた頃に、自分の水分補給の為にマスクを取ったら、泣かれてしまった。
7	#6	ニコニコと笑っていた。
	#7	最初少し驚いた表情をした後笑っていた。
	#8	目を見開いていた。
	#9	泣いた。
8	#10	人見知りのある女児で、私がマスクを外したら一瞬じっと見て動きが止まった。しかし声をかけると安心したようでニコリした。
	#11	お茶を飲むときマスクを外したら注目して固まった。笑って声をかけると表情が少し和らいだ。
	#12	目を丸くしてじっと見つめていた。
	#13	手足をバタバタし、喃語もよく出た。
	#14	保育士の顔をじっと見つめた。
9	#15	泣く、いないいないばあの遊びでマスクを外して何度も見せると理解したようで外しても平気になった。
	#16	仲良くした女児に泣かれました。マスクを着けたり外したりしながら、遊ぶうちに、慣れてくれました。
	#17	ニコニコと笑い顔に手を伸ばしていた。
	#18	10ヶ月児、マスクを外すことで見たこともない顔にびっくりして、人見知りのような感じで泣いた。
10	#19	ゾーッとみつめて、泣きそうになった。
	#20	マスクをつけずに朝の受け入れをしました。10ヶ月児でした。ちょうど人見知りの頃。お母さんと、私の顔を交互に見つめ、何度も繰り返していました。まるで、母にこの人であってると、聞いているようでした。
	#21	初めはじっと見たが、こちらの表情(笑顔)に合わせて笑った。
	#22	顔を触ろうとする。
	#23	鼻と口を興味津々で見つめて触ろうとしてきた。
	#24	顔をみつめたあとニコニコした。そのあとマスクを外そうと近くに寄ってきた。
	#25	先生へと笑顔で抱きついてきてくれた。
	#26	じっと見つめた後、笑顔になった。
	#27	外す瞬間を見せるとじーっと見つめてからニヤと笑う姿が見られる。
11	#28	子どもの食事のときに外して口の動きを見せたと泣かれました。
	#29	見慣れない保育士の顔に泣き、顔を隠した。
	#30	5類になって職員が外したら違う顔に見えるのか人見知りが激しい時期で2週間ほど泣いた。
	#31	保育士も水分補給をしているときに、たまたま目が合ったため、ニコッと微笑んでみると、すごく不思議そうな顔をし、泣きはしませんが少しだけ不安そうな顔をみせた。
	#32	最初は泣いたが毎日関わる中で、何度も見て月齢も上がり成長すると顔を見て喜んで笑い、何度も見る姿が見られた。
	#33	顔をじっと見られた後、大泣きされた。
	#34	きょんとしていたがこちらが笑うとつられて笑う。
	#35	戸外に出た際に外したら、しばらく口元を見つめてから目元を見ていた。笑顔を見せると、すぐに笑顔になった。
	#36	マスクを外すと一瞬動きが止まり、顔をじっとみつめる。
	#37	数秒真顔でじっと見つめていたが、少しすると笑いかけて笑顔で応えてくれた。
	#38	顔の認識をする様子が見られたが、時間がたつと表情がゆるんできた。
	#39	抱っこすると、マスクに興味があるようで、手で私のマスクを外した。私の表情がわかってうれしそうだった。安心していうようだった。
12	#40	泣かずにゾーッとみていた。
	#41	笑いかけて顔を少し近づけると笑い返してくれた。
	#42	じーっと顔を見つめる。
	#43	子どもを抱っこして、1歳を迎える誕生日の写真を撮影した際に少しの間マスクを外した。子どもはカメラではなく私の顔をじーっと見ていた。少しすると慣れたようで私の顔ではなく、カメラマンからの呼びかけでそちらを向いていた。
	#44	驚いた顔をした後も一度保育士がマスクをすると楽しそうに取る。いないいないばあのつもり。その後も抱くと取ろうとするようになった。
	#45	じーっと口元回りを見ていた。
	#46	最初無反応だったがすぐにニコニコになった。
	#47	私の口元を瞬きせずにじっと見つめた。
13	#48	不思議そうに眺め、助けを求めるように周りをキョロキョロしていた。
	#49	水分補給でお茶を飲んだ時、空っぽのコップと口を開けて「飲んだよ」と見せると笑顔で同じように口を開けた。
	#50	男児、おまごとの食べ物を持って保育士に手渡してきた。マスクを外して「あーむ。」と食べ真似をするよう要求していた。
	#51	にこにこしながら保育士の顔を触っていた。
	#52	慣らし保育が終わってやっとならぬうちに慣れたころ。午睡後はどうしても保護者の方を思い出して涙が出ていたが、マスクを外し笑顔を見せると落ち着くようになった。
	#53	じっと見てめられた。つけると、マスクを引っ張るようになったので、いないいないばあと楽しんでいる。

14	#54	コロナ禍に1歳児担任をしていた時、少し息苦しくなりマスクを外した時に1人の男の子が私の顔を見て泣いてマスクを付けさせようとしてきた。
	#55	子どもから保育者のマスクを外したがり「ばあ、ばあ」と顔を見ながらやり取りを楽しむ。
	#56	お茶を飲む時に外すと、じっと見つめていた。その後何度も何度も手を伸ばしマスクをずらそうとしてくる。
	#57	マスクを外して笑うと、子供も笑った。またマスクをつけると外そうとしてきた。
	#58	目を見開いてじっと顔を見ていた。
15	#59	私が再度マスクをつけているとマスクを引っ張って外し、「ばあ!」とするようになった。
	#60	の子に食事中モグモグとして見せるとじっと見ていた。
	#61	マスクを外すとじっと保育士の顔を見て、不思議そうにしていた。
	#62	食事の時もぐもぐするよ〜と伝えた時に口元を見せると、じーとみて笑っていた。
	#63	泣いている時にいないないばあでマスクを外して変顔をする、喜んで笑顔になり、自分から手を伸ばして保育士のマスクを外そうとしてくる姿があった。
16	#64	マスクを外して笑ったり、話かけたりしたら、そっとマスクを上へ上げられた。
	#65	泣かれたため、マスクは保育によくないと思っていたのでなるべく透明のシールドを使うようにした。
	#66	じっとみてマスクをつけている時に外そうと手を伸ばしてくる。
	#67	いないないばあをしたとき笑ってくれた。
	#68	泣かないけど、じっと見つめ、私が笑顔を見せても、笑っていいのか戸惑っている様子だった
17	#69	絵本の読み聞かせの際、絵本の内容に合わせて口元を見せるためはずしたところ、一歳4ヶ月の子どもが少し驚いた表情を見せて、じーと見つめてきた。マスクを外したまま読み続けると、笑顔になった。
	#70	マスクを外してふれあい遊びをした。じーと顔をみられ、こしょこしょと遊ぶととても表情豊かに喜んで遊んでいる。その後マスクを付けると、外してと保育者のマスクをはずそうと手で引っ張ろうとされる。
	#71	マスクを外しているとじっと見つめ、その後ニコニコ嬉しそうにしていた。
	#72	お茶を飲む時などにたまたまマスクを外すと顔をじっとみてきた。その後、一緒に遊んでいる時にマスクを触って外そうとしてきた。
	#73	「そんな顔だったの?!」という風にじっと見ていた。

“陰性感情「泣きそうになったり怖がったりした」という回答が多くみられたGroupAを担当する保育者の自由記述を、Table 3に月齢順に示した。泣いた、泣きそうになった、怖がった等の陰性感情の記述には網掛けをした。

乳幼児の陰性感情の表出は、6か月児から16か月児に見られ、特に11か月児の記述が多くあった。さらに、18か月以降の乳幼児の自由記述では、乳幼児に一時的な戸惑いは見られても、笑った、恥ずかしそうにした、言葉をかけてきたなど、保育者がマスクを外したことにに対するリアクションが多様であり、最初は保育者を凝視したあと、個人もしくは集団で、陽性感情をもって応答する記述が多くあった。

## IV 考察

### 1. マスク未着用の保育者をはじめて見たときの乳幼児の反応

マスク着用保育が2年を超えた本調査の1年前にあたる2022年6月調査では、保育者が食事や絵本の読み聞かせでマスクを外した時、乳幼児の反応として「凝視した」58%、「泣いた」「泣かれそうになった」という保育者が約5%存在していた<sup>4)</sup>。本調査における凝視「じっとみた」は約67.6%陰性感情「泣きそうになったり怖がったりした」4.1%であり、2022年、2023年の調査では同様の結果となった。

### 2. 乳幼児は保育者がマスクを外すと新奇な顔と認識するため凝視する

マスク未着用の保育者の顔をはじめて見たとき、GroupA（18か月未満児）とGroupB（18～24か月児）では75%が、GroupC（25～36か月児）では約70%の乳幼児が保育者の顔を凝視した。

凝視は、新奇な情報と既知の情報との照合であり、多くの乳幼児の凝視は当然の反応といえる<sup>5)</sup>。

しかし、GroupAのうち5か月児の自由記述（2名）には、保育者がマスクを外した顔を見せても泣くことはなく、笑顔が見られたと記述されていた。これは、個人差はあるが、6か月未満児は母親以外の他者を認識しても、識別する力が未発達であるためと考えられる<sup>6)</sup>。

### 3. 6～18か月児は新奇な顔に戸惑う

GroupAのうち、6～18か月児は、凝視後に泣いたり怖がったりといった陰性感情反応の記述が多くみられた（Table 3）。これは、生後6か月以上に急激に自分の傍にいる人と違う人を区別できるようになるためである。信頼を寄せていた保育者が突然別の顔になることは、自分を保護してくれる大人の突然の喪失であり、この月齢の乳幼児が恐怖を感じるのは正常な反応だろう<sup>7)</sup>。

6～18か月未満児は、安心の土台となるアタッチメント形成の重要な時期である。この月齢児は不安や恐怖を感じたとき、安心を求めて信頼する対象にしがみつく。保育者は、そのしがみつきの対象となる。しか



し、マスク着用時と未着用時の保育者を同じ人とは認識しにくい。

したがって、保育者は、親子が一緒にいるときにマスクを外して楽しくコミュニケーションを図り、この月齢児の精神的混乱を回避したい。

#### 4. 25～36か月児は言語獲得が目覚ましく口元や表情が見えることがうれしい

保育者がマスクを外した際、GroupC（25～36か月児）は、保育者の顔を凝視した割合が約7割、そしてキョロキョロしたなどの戸惑いを見せた幼児もいた。陽性感情の出現は他の月年齢グループよりも高く5割を超えた。この頃は、ボキャブラリースパートの時期であり、言葉獲得が目覚ましく言葉の獲得と共に身の回りの世界を理解する力が育つ時期である。また、新奇な事象には、原因と結果について考える時間を要し、他者の考えを理解することが未だ困難な時期でもある<sup>8)</sup>。本調査において25～36か月児は凝視も戸惑いも見せたが、うれしそうにしたという陽性感情が他の年齢グループよりも高かった。これは、保育者がマスクを外すと保育者の口の動きも表情も見えることへの喜びの表れであろう。

本論には掲載していないが、保育者がマスクを外した時の25～36か月児の反応として「何も言うこともなくじっと見つめていた」「じっと口元を見て、すぐに慣れてニコニコしていた」など、「じっと」ではなく「じっと」という記述が他の月年齢グループよりも多くみられた。25～36か月児の言葉を発する他者の口元や表情への関心の高さが想像できる。

したがって、言語獲得が著しいこの月齢児には、日常の対話や絵本の読み聞かせ時には、マスク外して口元や表情を見せることが重要であると考えられる。

#### 5. 37か月以上児は自然にマスクのない顔を受け入れる

本研究において、保育者がマスクを外すと陽性感情としての「うれしそうにした」は、18か月未満児<18～24か月児<25～36か月児>37か月以上児となり、3歳以上では保育者がマスクを外したことに対する陽性感情の表出割合が減少していた。これは、乳幼児が行動をする際、3歳未満児は大人が乳幼児の行動ひとつひとつに言葉や表情による支えが必要であるのに対し、3歳以上では大人の手助けや支えがなくとも、自分の言葉で事象を処理し、行動を完遂させることができるからであろう<sup>7)</sup>。したがって、3歳以上児の前でマスクを外す際は、一般的には特に気遣うことはないと考えられる。しかしながら、4歳前後の幼児は大人が理解

しがたい不合理な恐怖や恐怖症を発達させることがあるため、精神機能の発達特性を理解し、慎重な観察による個人差への配慮が必要である<sup>8) 9)</sup>。

#### 6. その他

乳幼児期は人生の土台となるアタッチメントが形成される時期である。先行研究においても、保育者等との健全な関係を持つ乳幼児は、他者の感情、ニーズ、思考に対する洞察を深める可能性が高く、それが他者との協調的な相互作用や良心の芽生えの基礎となると言われている。また、乳幼児の世界に関心を寄せ、応答的に関わる保育者等との関係は、乳幼児のより強い認知能力、学校での社会的能力や仕事の能力の向上と関連しており、社会的／感情的発達と知的成長の関連があるとされている<sup>11)</sup>。

アタッチメントは乳幼児期に保育者や養育者の日常的なケアの繰り返しにより形成されるものである<sup>12) 13)</sup>。本調査では、6～18か月の乳幼児に、保育者がマスクを外した際、凝視や怖れを抱いた乳幼児がいることがわかった。保護者とともに乳幼児のアタッチメントを形成する者として、保育者は子どもの基本的な発達を踏まえたうえでマスクを外し、乳幼児の反応を当然のこととして受け止める必要がある。

そして、長期に渡る保育者のマスク着用保育がなされた後、保育者がマスクを外すようになった今、保育施設の18か月未満児は、信頼する大人との離脱と再接続を経験する可能性があることを認識し、日本において進められてきた「担当制」および「緩やかな担当制」による発達の専門知識を持った保育者による継続的で適切な乳幼児への関わりが、より一層必要となると考えられる<sup>14) 15)</sup>。

## V 結論

保育者がマスクを外したとき、乳幼児がどのような反応をするのか調査し、保育者と乳幼児との信頼関係を保ちながら保育するために必要な事柄を考察した。

- ① 18～24か月児は、7割以上が保育者がマスクを外した顔を凝視する。
- ② 6～18か月児は、安心の土台となるアタッチメント形成の重要な時期である。この月齢児は不安や恐怖を感じたとき、安心を求めて信頼する対象にしがみつく。保育者は、そのしがみつきの対象となる。しかし、マスク着用時と未着用時の保育者を同じ人とは認識しにくい。保育者は、親子が一緒にいるときにマスクを外してコミュニケーションを図り、こ

の月齢児の精神的混乱を回避したい。

- ③ 25～36か月児は、言語獲得が著しい時期のため、日常の対話や絵本の読み聞かせ時に、マスク外して口元や表情を見せることは重要であると考えられた。
  - ④ 37か月（3歳）以上児の前でマスクを外す際は、精神機能の発達の個人差への配慮を必要とするが、一般的には特に気遣うことはないであろうと考えられた。
  - ⑤ 「担当制」および「緩やかな担当制」による発達の専門知識を持った保育者による継続的で適切な乳幼児への関わりが、より一層必要であると考えられた。
- 7) デズモンド・モリス、今福道夫訳、恐怖、赤ちゃんの心と体図鑑、東京：終風舎、2010：156-157
  - 8) デズモンド・モリス、今福道夫訳、2歳児の驚くべき世界、子どもの心と体図鑑、東京：終風舎、2010：159
  - 9) 七木田方美、日本保育園保健協議会編、豊かな心を育むために、新・保育保健の基礎知識、東京：先刻社会福祉協議会、2023：259-260
  - 10) ズモンド・モリス、今福道夫訳、2歳児の驚くべき世界、子どもの心と体図鑑、東京：終風舎、2010：58
  - 11) National Scientific Council on the Developing Child (2004) Young Children Develop in an Environment of Relationships : Working Paper No. 1. <https://developingchild.harvard.edu/resources/wp1/>（参照2023-10-31）
  - 12) Building babies' brains through play : Mini Parenting Master Class. Tips on how to boost your baby's brain development. <https://www.unicef.org/parenting/childdevelopment/building-babies-brains-through-playclass>
  - 13) 七木田方美、用語説明「サブ&リターン」、和顔愛語（比治山大学短期大学部幼児教育研究会）、2023：51：57
  - 14) 厚生労働省（編）、保育所保育指針解説、東京：フレーベル館、2018：89-90
  - 15) 七木田方美、ゆるやかな担当制、和顔愛語（比治山大学短期大学部幼児教育研究会）、2022：50：34-35

#### 〈キーワード〉

アフターコロナ COVID-19 保育者 マスク  
乳幼児

七木田方美（幼児教育科）  
（受理 2023年11月1日）

## 謝 辞

本研究の実施にあたり、多大なご協力を頂きました関係者のみなさまに感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) こども家庭庁、保育所における感染症対策ガイドライン（2018年度版）、2018：31
- 2) こども家庭庁、保育所における感染症対策ガイドライン（2018年度版）、2018：32-33
- 3) 七木田方美、保育者のマスク着用保育が乳幼児のアタッチメント形成に及ぼす影響—保育における「におい」に焦点を当てた考察—、比治山大学短期大学部研究紀要、2023：58：9-1
- 4) 先生を“モノ”と認識する子も…長期化する「マスク保育」発達にどう影響? <https://news.yahoo.co.jp/articles/f850797ed54b404d6f5947222a72383cee04b6cb>（参照2023-10. 31）
- 5) デズモンド・モリス、今福道夫訳、情報を処理する、子どもの心と身体図鑑、東京：終風舎、2010：72-73
- 6) デズモンド・モリス、今福道夫訳、恐怖、赤ちゃんの心と体図鑑、東京：終風舎、2010：156-157

